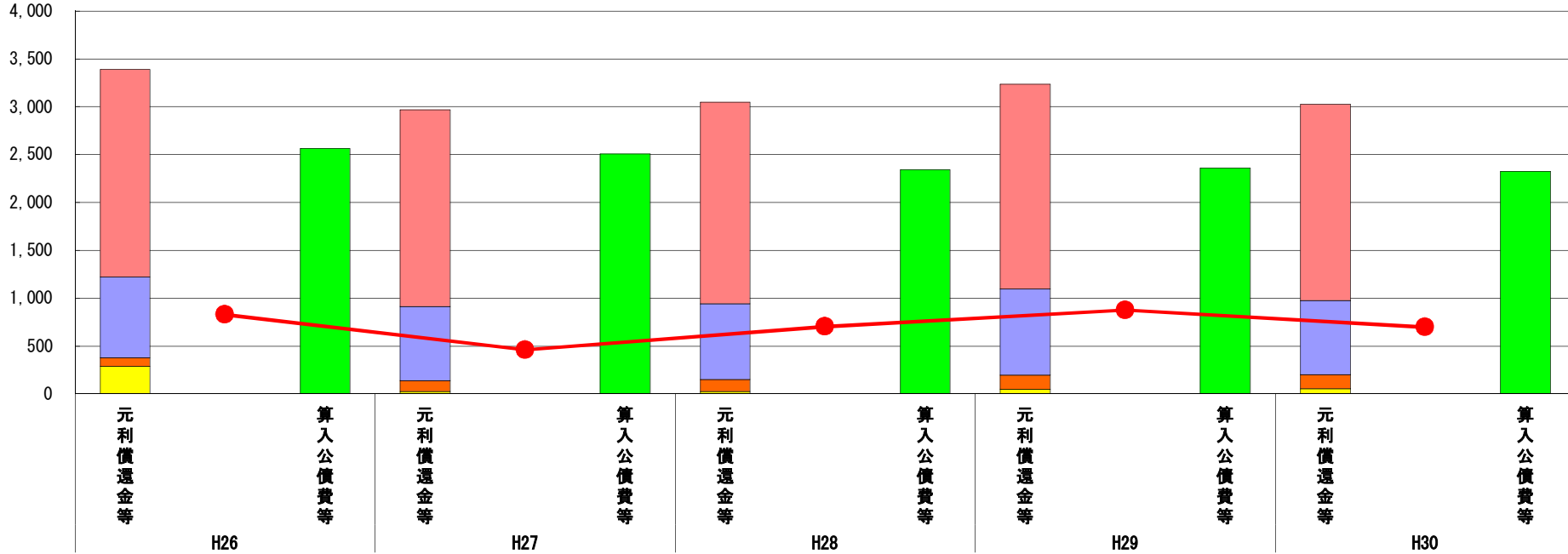


(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

岡山県笠岡市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金	2,169	2,053	2,102	2,139	2,046
	減債基金積立不足算定額※2	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	847	776	793	899	774
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	91	113	129	151	150
	債務負担行為に基づく支出額	285	24	22	46	53
	一時借入金の利子	-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等	2,562	2,507	2,343	2,359	2,324
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	830	459	703	876	699

分析欄

・繰上償還額を控除した元利償還金の額は、近年の借入額の増が要因でH28から増加しているが、H30は過去の高額な借入の償還が終了した影響もあり、一時的に減少はしている状況である。
 ・今後の見込みとして、大規模ハード事業が続いていることや臨時財政対策債の元金償還が本格化することにより、元利償還金は増額傾向になると見込んでいる。さらに給食センター建設事業にかかる債務負担行為も増額となる見込みのため、引き続き債務の縮減等の財政健全化の取組を続けていく必要がある。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

		年度				
		H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額	-	-	-	-	-

分析欄

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。